

先進性・独自性のある 教育プログラムの普及拡大

Hondaでは「より多くの人にクルマを操る楽しさを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という理念を実践するために、身体が不自由な方に車両運転時の安全性確保に向けた教育機会を提供し、交通事故低減をめざしたいと考えています。これまでに蓄積したノウハウをもとに、医療や福祉など様々な分野に安全運転教育の新たな価値を提供しています。



運転復帰をめざす リハビリテーション中の方をサポート

現在、高次脳機能障害などにより加療中の方々が社会復帰をめざしてリハビリテーションに励んでいます。こうした方々の中には、運転復帰を希望される方もたくさんいますが、その一方で、医師や作業療法士には患者の方に「何を基準に運転可否を判断すればいいのか」という不安があります。Hondaはこうした声に耳を傾け、四輪ドライビングシミュレーターの技術を活用し、リハビリ中の方の運転に対する評価や訓練をサポートするための「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」を開発。下肢に障がいをお持ちで、両上肢での運転操作が可能な方に向けた、Hondaセーフティナビ用「手動運転補助装置」も用意しています。昨年3月の発売以来、60カ所の病院やリハビリ施設でこのソフトを導入いただき、導入先へのアンケート調査では「判断材料の幅が広がった」という声を数多くいただいています。

静岡県^{せいのみかたはら}の聖隷三方原病院は、机上の検査で一定の基準をクリアした患者の方には教習所での実技評価を受けてもらうようにしています。同病院作業療法士の鈴木香菜子さん

は「机上の検査で問題がなくても、教習所で実車を運転できなかったというケースもあります。サポートソフトを使うことで、そうしたことを早い段階で発見できるようになりました」と話しています。高知県の近森リハビリテーション病院では、運転反応検査と危険予測体験の2つのコースを主に使っています。運転反応検査は反応速度の測定が本来の役割ですが、頭で考え、手と足を同時に動かすトレーニングとしても活用。これをクリアしてから危険予測体験に移行しています。同病院作業療法科科長補佐の矢野勇介さんは「従来のリハビリの訓練にサポートソフトを組み合わせたことで、注意障害の症状が改善した患者様もいらっしゃいました」と、導入の効果を語っています。



聖隷三方原病院(写真左)と近森リハビリテーション病院(写真右)で活用されているリハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト

身体が不自由な方の安全な移動のために

Hondaは、身体に障がいをお持ちの方や福祉に関わるドライバーの方々がより安心安全に自由な移動ができるよう、車両運転時の安全性確保に向けた教育機会を提供することが必要と考え、福祉関連施設および福祉関連団体の協力のもと、ホンダ太陽(株)、(株)レインボーモータースクール、(株)モビリティランドと共同で安全運転プログラムを開発。4月より交通教育センターに導入しました。

このプログラムは、四輪での運転復帰や社会参加を目指す身体に障がいをお持ちの方が安全運転に必要な「走る」「曲がる」「止まる」といった基本行動を実車走行による体験を重ねることで、運転操作・感覚を把握できる「自操安全運転プログラム」と、福祉に関わる運転を行う方々のより安心安全なドライブをサポートする「移送安全運転プログラム」があります。

さらに、Hondaは大分県の社会福祉法人 別府リハビリテーションセンター、ホンダ太陽(株)と共同研究体制を構築しました。2015年3月まで身体に障がいをお持ちの方に向けた安全運転機器の検証とデータ蓄積、障がいの有無と運転操作の関係について共同で研究していく予定です。

実車での認知・判断・操作の基本行動を確認

交通教育センターレインボー熊本では熊本県の阿蘇温泉病院と武蔵ヶ丘病院が「自操安全運転プログラム」を利用。リハビリ中の方3名がインストラクターと一緒に実車に乗り、交通教育センター内のコースで安全運転に必要な認知・判断・操作の基本行動を体験しました。7ヵ月ぶりに運転したという55歳の方は「公道で事故は起こせませんから、安全に運転を練習できる施設とプログラムがあつて良かったです。今日は前進のみでしたが、次はバックや車庫入れの練習をして、よりスムーズな運転ができるようになりたいです」と運転復帰への手ごたえを感じていました。

患者の方に同行した阿蘇温泉病院医療福祉相談室の齊藤隆浩さんは「実車を使って患者様はもちろん、私たちも運転能力を直接確認できるので、運転再開に向けてより適切なアドバイスができます。今後も、積極的に活用していきたい」と、このプログラムを評価しています。また、武蔵ヶ丘病院リハビリテーション科部長の木原伸一さんは「交通教育センターのような安全が確保された場所で、実車を使った練習ができるのはありがたい。患者様も自分が運転することで励みになり、『これなら大丈夫』と感じれば自信にもつながるでしょう」とプログラムの効果を話しています。

すでにこのプログラムを受講された方に、条件付免許証交付が許可されるなど、取組みは徐々に拡大しています。



社会福祉法人 別府リハビリテーションセンター(写真中央)、ホンダ太陽株式会社(写真右)、Honda(写真左)による共同研究の調印式



交通教育センターレインボー熊本での阿蘇温泉病院と武蔵ヶ丘病院の患者の方を対象にした自操安全運転プログラム